

第4節 大田医療圏

(1) 概況

① 人口及び面積

	人口 (人)	面積 (k m ²)	人口密度 (人/k m ²)	年齢別人口割合 (%)		
				0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
大田	54,733	1,244.35	44.0	11.4	48.7	40.4

人口：「平成30年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口（市区町村別）（総計）」に基づき二次医療圏別に編集したもの

（外来医師偏在指標に係るデータ集（厚生労働省提供）より）

面積：平成27年全国都道府県市区町村別面積調（国土交通省国土地理院）

② 外来医師偏在指標

外来医師多数区域に該当

外来医師偏在指標：106.2	
一般診療所従事医師数：51	標準化診療所従事医師数：52
診療所外来患者対応割合：77.5%	順位：109

*圏域内偏在

少数区域：大田市街地以外、邑智郡

③ 医療機関の状況

ア) 医療機関数

	病院	一般診療所
大田圏域	4	71
大田市	2	42
川本町	1	2
美郷町	0	8
邑南町	1	19

県医療政策課（令和元年10月1日時点）

イ) 在宅医療に関する施設数

	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	在宅療養支援診療所
大田圏域	1	0	8
大田市	0	0	8
川本町	1	0	0
美郷町	0	0	0
邑南町	0	0	0

中国四国厚生局管内の届出受理医療機関名簿（令和元年10月1日現在）より

ウ) 島根県医療機能情報システム

- ・検索が可能な医療機関（島根県内の病院、診療所、歯科診療所、助産所）
- ・主な機能：地域から検索、診療科目から検索、治療内容や保有する設備、専門外来や予防接種などいろいろな条件で検索

<http://www.mi.pref.shimane.lg.jp/shimane/ap/qq/men/pwtpmresult01.aspx>

エ) 施設配置状況

— 医療施設所在地マップ（厚生労働省提供）より —

医療機関マッピング（地方厚生局届出情報）



注：地理情報は平成30年4月時点
この地図の作成にあたっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平30情使 第524-1号）

医療機器保有状況

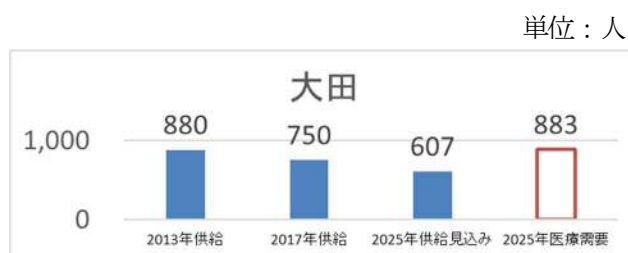
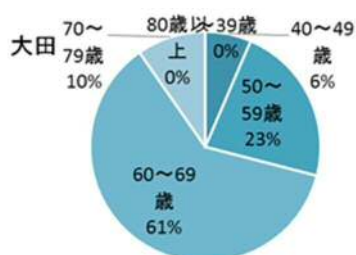
機器名	医療機関名 (台数) (H29 時点)			
	病院		診療所	
CT	4	大田市立病院 (2) 邑智病院 (1) 加藤病院 (1)	3	仁摩診療所 (1) 合原医院 (1) 三笠記念クリニック (1)
MR I	2	大田市立病院 (1) 邑智病院 (1)	0	なし
P E T	0	なし	0	なし
放射線治療	0	なし	0	なし
マンモグラフィ	2	大田市立病院 (1) 邑智病院 (1)	0	なし

オ) 島根県在宅医療供給量調査(平成 29 年度)

調査結果

在宅医療を実施している診療所医師年齢層

在宅医療の需要と供給



(2) 現状と課題及び今後の方向性

① 全体の方向性

外来医師偏在指標で多数区域に該当するため、新規開業者に対して、初期医療・在宅医療等の医療機能について、地域のニーズに応じて依頼することとします。

② 【初期救急医療の提供体制】

ア) 現状と課題 (提供体制)

○大田市医師会で大田市内、邑智郡医師会で邑智郡内の在宅当番医制を圏域内各病院と連携し、各診療所または病院において実施しています。(日曜日、休日、年末年始) 初期救急を担っています。

○受診者数 (大田 1294 人/年、邑智 335 人/年 平成 30 年度実績)

○大田市においては、診療所医師 10 数名、邑智郡においても、診療所医師 10 数名が交代で診療を行っています。

○インフルエンザ流行期は患者が多く、医師の高齢化、看護スタッフ等の配置に課題があります。

イ) 今後の方向性

- 初期救急医療の1つとして在宅当番医制のあり方を検討します。

③【在宅医療の提供体制】

ア) 現状と課題

- 人口10万人あたり訪問診療患者数を見ると、大田圏域は県と比較して多くなっています。大田圏域の訪問診療は診療所、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院などが担っています。
(2017年度NDBデータによる)
- 県の平成29年在宅医療供給量調査によると大田圏域の在宅医療を実施している医師年齢層は60歳以上が71%です。また、受け持つ療養患者数も将来的に減ると見込まれます。
- 大田圏域地域医療構想の医療需要推計により、2025年の在宅医療等は2013年に比べると減ると予想されていますが、医師の高齢化、後継者の不在に対する体制整備が課題です。
- 高齢化が進むなかで認知症対応型グループホーム等の協力機関としての役割を担っているところもあります。
- 大田市においては「緩和ケアネットワーク大田」において地域住民への緩和ケアに関する啓発に取り組んでいます。
- 邑智郡においては邑智郡地域推進協議会において医療・介護提供体制づくりを図っています。
- 邑智郡医師会において医療連携コーディネーターを平成30年に配置し、医療と介護の連携を進めています。

イ) 今後の方向性

- 在宅医療における訪問診療、往診、看取り機能を有する診療所を維持する必要があります。

④【産業医、学校医、予防接種等の公衆衛生に係る医療提供体制】

ア) 産業医

- 圏域内の産業医資格者26人が事業所等で活動しています。
大田市17人 邑智郡9人 (令和元年10月現在)

イ) 学校医

- 内科担当医師については、一人の医師が複数校の兼務しているところもありますが、各学校(中学校12校、小学校27校、幼稚園2園)に配置されています。
- 耳鼻科及び、眼科の担当医師については人数が少なく、一人の医師が複数校兼務で対応しています。邑智郡においては、耳鼻科や眼科の健診等を圏域内外の医師に依頼しているところもあります。(令和元年10月現在)

ウ) 今後の方向性

- 地域のニーズに応じて、体制を維持します。

(3) 新規開業者へ求める事項

- 初期救急体制維持のための協力
- 訪問診療等在宅医療への協力
- 学校医、産業医等の依頼に応じた協力

(4) 医療機器の効率的な活用に係る計画

機器名	共同利用の方針
CT	圏域内の病院、診療所に配置されている。 共同利用については、診療所から病院に紹介する形で実施されており、今後より効率的に活用できるよう連携を図っていく必要がある。
MR I	圏域内2病院に配置されている。 共同利用については、病院及び診療所から紹介する形で実施されており、今後もより効率的に活用できるよう連携を図っていく。
PET	現在圏域内の病院、診療所に配置なし。 今後導入の場合、共同利用のための連携を図る必要がある。
放射線治療	現在圏域内の病院、診療所に配置なし。 今後導入の場合、共同利用のための連携を図る必要がある。
マンモグラフィ	圏域内の2病院に配置されている。 主に健診に利用されている。 共同利用については患者紹介の形で実施されており、今後もより効率的な活用ができるよう、連携を図っていく必要がある。